

「男女共同参画社会を考える」と合同セミナー

笑って考える男女共同参画 報告

【開催日程】平成 28 年 9 月 26 日

【開催場所】高知大学 朝倉キャンパス 210 番教室

【参加人数】156 人

挨拶 内川 勇介氏

こうち男女共同参画センター「ソーレ」事務局長

講師 瀬地山 角氏

東京大学大学院総合文化研究科教授

【概要】

このセミナーは男女共同参画推進室とこうち男女共同参画センター「ソーレ」が協同で企画し、共通教育「男女共同参画社会を考える」の集中講義とコラボして開催されました。

男女共同参画支援ステーション長の小島優子准教授が司会を務めました。共通教育科目「男女共同参画社会を考える」は、今年で 5 年目になります。今回のリレー講義の目玉企画として、東京大学から瀬地山先生をお招きしました。男女共同参画について、身近に自分たちの生活に即して考えてもらうことを目的としています。



まず、こうち男女共同参画センター「ソーレ」の内川事務局長から、ソーレの取組事業について説明がありました。男女共同参画「ソーレ」では、男女共同参画に関するさまざまな企画やセミナーを開催しており、大学生への参加を呼びかけました。

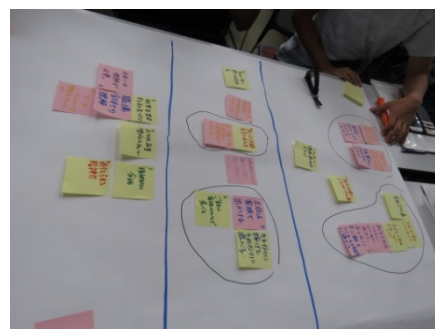
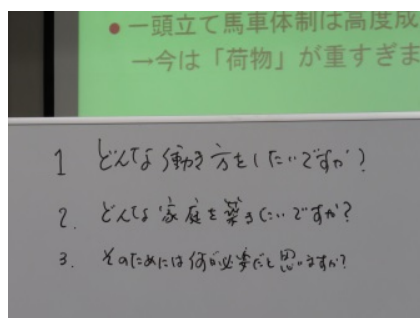


次に、瀬地山先生から、「笑って考える男女共同参画」の講演がありました。男性の家事・育児時間が少ないなかで、男子にこそ家事能力が求められています。味の素とサッポロ一番のCMを例にとり、家族の中で父親と母親がどのように描かれているかについて提示されました。

また、男性の自殺が多いことから、「男性問題」についてもお話がありました。男女共同参画に関して、日本は国際的には後進国であるので、女性と男性で新しい社会を構想しようというのが、ご講演の内容でした。



講演の後は、講義の内容について学生がグループワークをして、考えました。テーマは、1. どんな働き方をしたいですか？、2. どんな家庭を築きたいですか？、3. そのためには何が必要だと思いますか？です。学生が自分の問題として自分の生き方について考えて、男女共同参画に触れるきっかけとなりました。



【参加者コメント】

・男女共同参画とは男と女が互いに認めあう社会だと思っていたが、本当の意味では、性別に関わりなく能力や個性を尊重する社会だと分かった。

収入の考え方がとても面白いと思った。共働きで家事をシェアすることが一番豊かに生活できるということが分かった。

・今の社会、この先の日本がどうなっていくのかという現状を知り、これからますます男性、女性関係なく社会に出て行く(仕事もする)必要性を感じた。目の前の都合のいいものだけをみるのではなく、その先、未来を見すえた選択、行動をしていく重要さもわかった。まだまだ家事や育児は女性が主で男性は手伝うという考えが深く根づいてしまっているとデータを見て感じたので、自分たちもこれからの社会の変化に合わせて変わっていくことが大切だと思う。